

日本地球惑星科学連合 2022 年大会の 展示ブース出展報告

遠山 知亜紀¹⁾・斎藤 眞¹⁾・宮下 由香里¹⁾・宍倉 正展¹⁾・利光 誠一¹⁾

1. はじめに

地質調査総合センター（以下、GSJ）はアウトリーチ活動の一環として、日本地球惑星科学連合大会（以下、JpGU）においてブース出展を行っている。今年のJpGUは、5月22日（日）～6月3日（金）の期間で開催され、前半（5月22日～27日）は千葉市幕張メッセ国際会議場・国際展示場にてハイブリッド開催、後半（5月29日～6月3日）はオンラインでの開催となった。GSJはこの会期中に、現地とオンラインでブース出展し、GSJの役割・研究成果の紹介や学生に向けた就職相談などを行った。

2. 展示内容（現地ブース）

JpGUは新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に

より、2020年からオンラインのみでの開催が続いていたが、今年は現地とオンラインのハイブリッドでの開催となり、3年振りの現地ブース出展となった。ブースやポスター会場は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため縮小され、会場となった国際展示場の半分程度の面積で実施された（写真1）。また、出展期間は会場の都合で、5月22日（日）から5月26日（木）までと例年より短いものとなった。期間中のブースの来訪者はおおよそ700人で、コロナ禍前に比べると100名程少ないが、出展期間が短いことやJpGUの現地来場者自体が例年より少ないことを考慮すると、例年と同程度、またはそれより多いかもしれない。また、学生からの就職相談は20件程あった。

展示したものは、紹介パネル4枚（3次元地質地盤図、地質図Navi、採用案内、新作標本館グッズ）と2021年から2022年に出版された新刊地質図（5万分の1「池田」, 「陸



写真1 展示会場の様子（開会直後）

1) 産総研 地質調査総合センター連携推進室

キーワード：日本地球惑星科学連合 2022 年大会、アウトリーチ、地質図、地学教育、普及活動

中関, 「豊田」, 「桐生及足利」, 「和気」, 20万分の1「野辺地」, そして, 200万分の1「日本地質図」, 「日本の火山」, 5万分の1「富士火山地質図」で, それぞれをパネルに張り出し宣伝した。紹介パネル4枚については, 展示がブース受付の背面に位置し, 来訪者が近づいて観ることができないため, デジタルサイネージでも展示した。また, オンライン開催で紹介できていなかった2019年と2020年に出版した地質図(5万分の1「本山」, 「上総大原」, 「十和田湖」, 「馬路」, 「明智」, 「角館」, 20万分の1「輪島」, 「広尾」)についても地質図ラックを使用して展示した。地質図Naviと地質地盤図に関しては, 床貼りスクリーンに投影する形で実際の使い方も紹介した。ブースの様子を写真2に示す。

無償頒布物(カッコ内はおおよその配布部数)は, GSJパンフ(日100, 英5), 地質図カタログ(100), 地質標本館パンフ(日100, 英50), 地質パンフ(100), DIVERSITY(日10, 英10), 産総研Link(50), 地質標本館カード

(500), 地質図Navi・シームレス地質図カード(50), 年表(150), 化石アトラス(150), ジオ君ファイル(300), プリズム眼鏡付きカード(300), 入戸火砕流分布図(5)を用意し配布した。有償頒布物としては, 展示した地質図類と地質標本館グッズ(マスキングテープ6種, マルチケース2種, 折りたたみトート, 風呂敷日本群島地質図, 鉱物トランプ)を用意した。これらは全体的に好評であったが, 中でも地質図類では200万分の1「日本地質図」が, 地質標本館グッズでは風呂敷が特に好評であった。また, 地質図においては, 新作の地質図は色がカラフルなものが多かったため, インテリアとして購入する来訪者もいた。

3. 展示内容 (オンラインブース)

Confitを用いた大会ポータルサイト上のブースでは, GSJについて, Teamsでの個別Web採用相談, GSJピカイチ展の紹介, 3次元地質地盤図の紹介, そして, 地質図作成



写真2 出展ブースの様子

プロジェクトと地質図 Navi の紹介動画，GSJ 関連ページへの各種リンクを展示した．オンラインブースは5月22日(日)から公開され，期間中のブースの閲覧数は73で，Teamsでの個別Web採用相談は2件の申し込みがあった．

4. おわりに

3年振りの現地開催となったが，JpGUの現地来場者は例年の半分程度だった．しかしながら，ブース会場は久しぶりの現地開催ということで，賑やかな雰囲気であった．中でもGSJブースは来訪者が多かったため特に賑やかだったようで，撤収時に他のブースのスタッフから「GSJのブースは楽しそうで羨ましかった」と言われた．また，ブース来訪者からは，「1/200万日本地質図のリバイズ版が欲しい」，「ジオ菓子のようないちごスイーツを作って欲しい」，「ジオ君のLINEスタンプが欲しい」，「地質標本館グッズを入れたガチャガチャを作って欲しい」などの要望があった．

謝辞：今回のブース出展にあたり，以下の方々（敬称略）にご協力いただきました．ここに記して感謝申し上げます．

連携推進室：川畑史子，長江敦子

地質情報基盤センター：森田澄人，柳澤教雄，常木俊宏，瀬戸口希，谷田部信郎，都井美穂，山口政史

地質情報研究部門：宮地良典，渡辺真人

活断層・火山研究部門：田中明子

研究企画室：高橋幸士

第七事業所業務室：山田千夏

また，本事業で利用したデジタルサイネージは募集特定寄附金 GeoBank(ジオバンク)で購入したものです．GeoBankは，GSJの研究成果を広く社会へ普及させていくための環境づくりを目的とし使用されています(<https://www.gsj.jp/geobank/index.html>)．ご寄付をいただいた方々に深く感謝申し上げます．

TOYAMA Chiaki, SAITO Makoto, MIYASHITA Yukari,
SHISHIKURA Masanobu and TOSHIMITSU Seiichi (2022)
Report on the exhibition at the JpGU Meeting 2022.

(受付：2022年6月28日)